

(別記)

2022 年度 柏崎市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域の農業は、稲作が中心で主食用米と併せて備蓄米、加工用米、飼料用米等を生産している。また、水田を活用し、ほ場整備済みの地区は大豆を中山間地ではそばを中心とした作付が行われており、さらに、園芸品目の生産にも取り組んでおり、えだまめ、たまねぎの生産拡大を図っている。課題としては、水田地帯ではあるが、ほ場整備率は53%と県平均よりも低く、生産環境の改善が必要になっている。また、中山間地域では農業者の高齢化が進み、担い手の確保が必要である。このため、地域の大切な生産資源である水田をフル活用した農業を展開し、農業者の所得確保を図る。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上と水田の有効活用に向けて、園芸作物等の高収益作物の導入拡大と併せて需要に応じた米生産を展開する。

このため、園芸品目のうち「えだまめ」、「たまねぎ」を重点品目に位置づけ、JA 柏崎が運用する「えだまめ集出荷施設」や「たまねぎ乾燥設備」の活用や機械化体系のモデル育成により収益力強化の取組を進める。

えだまめは JA 柏崎のブランドである「越後はちこく茶豆」による新たな市場開拓に取り組み、たまねぎでは水稻育苗ハウスを活用した苗生産を進め、販売力強化とコスト低減を図る。

また、本年度から JA 柏崎において農業用ドローンでの農作業受委託事業が計画されており、省力・低コスト生産技術の導入・普及に結び付けていく。

米生産では、需要に応じた生産を確実に展開するため、引き続き、非主食用米を推進し、稲作での所得安定を図っていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農地集積により経営体の経営面積が拡大しており、水田を農地として適切に維持・管理できる農作物の選定が重要である。

このため、水稻は極早生から晩生までの品種構成を推奨するとともに、大豆やそばへの推進や、ほ場整備の実施と併せて、えだまめ等の園芸品目の導入を図り、農地の有効利用に取り組んでいく。

また、JA 柏崎えだまめ生産部会産地推進計画に基づいて、畑地化の取組を推進していく。

水田の利用状況の点検とその結果を踏まえて、水田において水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみの生産を継続しているほ場について現地確認等で点検を行う。

そのうえで該当水田については、畑作物の連作障害回避や畑地化支援の活用、地域におけるブロックローテーション体系の構築などの観点から、畑地化についての協議を進めていく。

4 作物ごとの取組方針等

水田を水田として活用する取組を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、所得の拡大を図っていく。

(1) 主食用米

基幹の品目と位置づけ、需要に応じた生産と安全・安心な売れる米づくりの取組を推進する。

ア 家庭用米

コシヒカリの作付比率は約 53%であり、需要に見合った生産を継続する。

早場米地帯としての特色を活かした県内一早い新米「葉月みのり」による産地のイメージアップと、「こしいぶき」「コシヒカリ」「新之助」の多様な品揃えによる需要に応じた生産を推進する。

また、中山間地域では立地条件を活かした付加価値の高い米づくりを進める。

イ 業務用米

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、業務用米需要が停滞気味であるため、実需者の要望を踏まえた多収性品種「ゆきん子舞」「あきだわら」等による生産を行い、併せてコスト低減等にも取り組む。

(2) 備蓄米

買入数量に応じた安定した取組を推進する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

米価下落の影響を受けにくく、一定の生産者所得が見込めることから、本年度も引続き、生産拡大を図る。多収品種「新潟次郎」等の作付を推進し、コスト低減と収量の高位安定に取り組み収益力の向上を図る。

イ 米粉用米

県内製粉業者や地元柏崎市内の製菓業者からの要望に応えることのできる、米粉用米の生産量の確保に取り組む。

ウ 新市場開拓用米

国内の米の消費や需給環境が年々厳しくなることから、新市場開拓に向けた水田リノベーション事業等を活用して、新市場での需要拡大に結びつく体制を整備・構築し生産拡大を図る。

エ WCS 用稲

当地域で、新たに取り組む水田活用の農作物として期待が持てることから、今年度は試験的に栽培に取り組み、将来の安定生産に結び付ける。

オ 加工用米

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業等を活用しながら、実需者ニーズの確保に向けた生産を進める。

また、加工用米の取組を安定させるため、協議会として産地交付金により独自に支援を行う。

(4) 麦、大豆、飼料作物

○麦

需要に応えるため、大豆作との二毛作を主に新たな当地域の作目の一つとして推進する。

取組に当たっては、作付面積の拡大と排水対策・団地化の実施により生産量を確保していく。

○大豆

需要に対応するため、ほ場整備地区を中心に、作付面積の拡大と大豆 300A 技術の取組による品質・収量の高位平準化と、団地化等による生産コストの低減を推進する。

○飼料作物

地域の畜産農家の需要に応じるため、必要に応じて取り組む。

(5) そば

中山間地域における重要な品目として位置づけており、実需と結びついた作付けを推進する。

取組に当たっては、作付面積の拡大と排水対策・団地化の実施による収量の高位平準化を図っていく。

(6) 地力増進作物

高収益作物への転換に向けた土づくりとして取組の推進を図っていく。

(7) 高収益作物

産地交付金を活用して、園芸品目の生産拡大を図る。

重点園芸品目の 8 品目（たまねぎ、えだまめ、カリフラワーなど）は市場出荷のための生産拡大を推進し、市場からの評価獲得と出荷期間中における安定的なロット確保を図る。

なかでも、たまねぎは業務用として実需との結び付きが強く、安定的な収益が見込まれることから、大豆・そば後の栽培を推進し、水田フル活用による農業所得の最大化を図る。

園芸作物 16 品目は、学校給食用や地元農産物直売所で需要があるが、ほとんどの品目で生産量が需要に対応できていないため、生産拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

５ 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和５年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,724.4		2,715.0		2,700.0	
備蓄米	128.7		90.0		85.0	
飼料用米	229.3		265.0		275.0	
米粉用米	13.9		7.0		6.0	
新市場開拓用米	16.7		27.0		28.0	
WCS用稲	0.0		2.8		3.0	
加工用米	143.0		150.0		150.0	
麦	0.0		0.7	0.7	1.5	1.5
大豆	47.3		48.0		50.0	
飼料作物	1.2		1.0		1.0	
・子実用とうもろこし	0.0		0.0		0.0	
そば	18.9		21.0		21.5	
なたね	0.0		0.0		0.0	
地力増進作物	0.0		2.0		3.0	
高収益作物	38.8	3.8	56.0	5.0	65.0	7.0
・野菜	38.8	3.8	56.0	5.0	65.0	7.0
・花き・花木	0.0		0.0		0.0	
・果樹	0.0		0.0		0.0	
・その他の高収益作物	0.0		0.0		0.0	
その他	0.0		0.0		0.0	
	0.0		0.0		0.0	
畑地化	1.1		2.0		3.0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度(実績)	目標値
1	大豆	収量向上取組支援	取組面積 10a当たり収穫量	(令和3年度)47.32ha (令和3年度)156kg/10a	(令和5年度)50.0ha (令和5年度)240kg/10a
2	カリフラワー、ブロッコリー、いちご(越後姫)、アスパラガス、里芋、ニンジン	生産拡大支援 (重点園芸品目)	取組面積	(令和3年度)7.0ha	(令和5年度)13.0ha
3	たまねぎ えだまめ	生産拡大支援 (たまねぎ、えだまめ)	取組面積	(令和3年度)22.7ha	(令和5年度)37.0ha
4	たまねぎ	生産拡大支援 (二毛作)	取組面積 10a当たり収穫量	(令和3年度)3.8ha (令和3年度)2.9t/10a	(令和5年度)7.0ha (令和5年度)4.0t/10a
5	そば	生産拡大支援	取組面積 10a当たり収穫量	(令和3年度)18.9ha (令和3年度)48.0kg/10a	(令和5年度)21.5ha (令和5年度)50kg/10a
6	露地いちご(越後姫を除く)、未成熟そらまめ、マコモダケ、ウド、食用ばれいしょ、キャベツ、大根、ネギ、かぼちゃ、きゅうり、トマト、白菜、ぜんまい、なす、ニンニク、オータムポエム	生産拡大支援	取組面積	(令和3年度)5.3ha	(令和5年度)8.0ha
7	米粉用米 (秋雲)	生産拡大支援	取組面積 10a当り収穫量	(令和3年度)0.6ha (令和3年度)420kg/10a	(令和5年度)0.7ha (令和5年度)508kg/10a
8	加工用米	生産拡大支援	取組面積	(令和3年度)143.0ha	(令和5年度)150.0ha
9	麦	農地の高度利用支援 (麦二毛作)	取組面積	(令和3年度)0ha	(令和5年度)1.5ha
10	WCS用稲	生産拡大支援	取組面積	(令和3年度)0ha	(令和5年度)3.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
 ※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:新潟県

協議会名: 柏崎市地域農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	収量向上取組支援	1	13,500	大豆	(必須)開花期以降の基幹防除2回、1ha以上の団地化 (選択)耕うん同時畝立て播種、周囲明渠等
2	生産拡大支援 (重点園芸品目)	1	18,000	重点園芸品目 (カリフラワー、ブロッコリー、いちご(越後 姫)、アスパラガス、里芋、ニンジン)	出荷・販売面積に応じて支援
3	生産拡大支援 (たまねぎ、えだまめ)	1	22,000	重点園芸品目 (たまねぎ、えだまめ)	排水対策の実施
4	生産拡大支援 (二毛作)	2	23,000	重点園芸品目 (たまねぎ(二毛作))	機械化一貫体系による作付
5	生産拡大支援	1	5,000	そば	排水対策の実施
6	生産拡大支援	1	9,000	園芸作物16品目 (露地いちご(越後姫を除く)、未成熟そら まめ、マコモダケ、ウド、食用ばれいしょ、 キャベツ、大根、ネギ、かぼちゃ、きゅうり、ト マト、白菜、ぜんまい、なす、ニンニク、 オータムボエム(全て基幹作物))	出荷・販売面積に応じて支援
7	生産拡大支援	1	10,000	米粉用米 (秋雲)	「秋雲」の作付
8	生産拡大支援	1	2,500	加工用米	生産性向上の取組の実施
9	農地の高度利用支援(麦二毛作)	2	25,500	麦	大豆との組み合わせによる二毛作
10	生産拡大支援(WCS用稲)	1	4,300	WCS用稲	生産性向上の取組の実施

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。